

しきたり・作法② ▶▶▶ その起源と実際をわかりやすく!

10 数珠

本来は数を数えるためのものでした。精神集中により雑念を払う為の手法として用いられてきました。宗派や男女により数珠の数・大きさ・材質が色々違っていきます。108個のものは百八煩惱を清めるように静かにすり合わせます。

*合掌：由来はインドで、インド人は右手を清浄、左手を不浄として使い分ける為、両手を合わせる事で人間の中にある浄と不浄を止揚する真実の心が表れると信じたわけです。



11 位牌

日本人の信仰では、霊は人々の生活の場に常在するものではなく、祭るときに招きよせるものであり、そのとき霊は媒介物を介して示現すると考えられてきました。この媒体となるのが、「依り代」と呼ばれるもので、榊・位牌・卒塔婆、石塔などがあります。尚、白木の位牌は忌明けとともに黒塗の本位牌に取り替えます。黒塗の他、黒檀・紫檀の位牌が主流になってきました。



12 焼香

抹香をたいて死者を供養することをいいます。本来は、香を持参し仏前にすすみ、懐中から香包を出して香炉にくべて礼拝したそうです。焼香は、仏・法・僧にかかげる意味で3回する場合がありますが、会葬者が多い場合は1回でも良い。「心香一弁」心を込めて1回でも良いでしょう。



13 香典

香典はもともとは、香を拝借した代金を包んだのが始まりともいわれています。今日では、故人に対して供物を捧げる意味と、葬礼を共同体の事業と考え、喪家の金銭的負担を軽くする意味合いがあります。

*香典のお札は、新札を使うか? : 新札を使うのは祝い事の場合です。弔事の際は、いかに用意していたと思わせるような新札は避けて、旧札を包むよう注意します。



14 御布施の表書き

供養のために寺院や僧侶にさしあげる謝礼を、すべて「御布施」とよびます。

御布施 御冥加 塔婆料
御膳料 御棺覆料 永代供養
御供養 御血脈料 御菓子料
御扇子料 御明し料 御香華料
御仏前 粗供養 御車料
御粗末料



15 通夜

ご葬儀の完了まで、ことに夜中眠らずに番をする通夜の風習は世界的です。共通する特色は、親族や参列者が夜中眠らないということであり、その為に火を絶やさず、飲食を供し、陽気に騒ぐのが一般的となっています。その理由として、死者の魂が悪霊にとりつかれないように番をするのだとか、生者が死者や死霊そのものの恐怖を避けるとか、いわれています。通夜の夜は、灯明と香は絶やさぬようにします。



16 心づけ

ご葬儀の世話役になって戴いた方や、家事を手伝って戴いた近所の方々へ感謝の意を込めて御礼をすることがあります。霊柩車の運転手、マイクロバスの運転手、火葬場の係員などにも心づけをする場合があります。



*メモリアルは一切ご辞退しております。

17 骨あげ

近親者から、順に木か竹の箸で拾い上げ、人から人へ渡したり、二人で同じ骨をはさんで骨壺に納めます。まず、足の骨から拾い上げ、次に腕・腰・背・歯・頭の順にし、最期にのど仏を故人と最も血のつながりの濃い人が拾います。
*骨上げを、二人一組で行なう理由は、亡くなった人を此岸(この世)から彼岸(あの世)へ箸(橋)渡しをするという意味があります。



18 清め塩

ご葬儀から帰ってきた人は、家の中に入る前に、体に塩を振掛けて清める習慣があります。但し、死を穢(けが)れとみなさない仏教的立場からは、この清め塩は、特に意味はないようですが、しきたりになっています。



19 香典返し

当日返しと、後返しがあります。当地は、当日返しです! 後返しは、初七日や三十五日の忌明け前に行なわれています。

⇒仏事のお返しは、使うもの・無くなってしまふものが良いとされ、やはり実用的なお茶が主流のようです。お茶は、狭山茶が最高級品とされており、当社では中でも最高の品質を選び、全てこの狭山茶を中心にすすめております。ご葬儀のお茶はまずい! といわれている方が多い中、「メモリアルのお茶はとても美味しい」と好評です。



20 忌明け

仏教では、五七日忌(三十五日)・七七日忌(四十九日) 神道では、三十日祭・五十日祭をもって、忌明けとしています。宗派によっては、この間を中有または中者の陰と呼び、忌明けを満中陰と呼んでいます。中陰の死霊魂は、この世に留まり七七日忌を迎えて死後の行き場所が決まり、冥途へたどり着くといわれています。



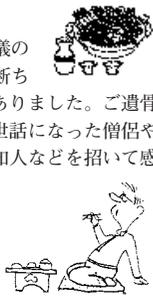
21 戒名・法名

昔は魂の成長とともに名前が何度も変わりました。戒名・法名は仏門にはいった者につける名前でした。仏門に帰依したという意味とともに仏のさとりに入ったという意味も含んでいます。
*戒名
○○院□□△居士(大姉)
□□△居士(大姉)
□□△信士(信女)



22 精進落とし

昔は、死者が出るとご葬儀の終るまで、生臭いものを断ち精進料理で過ごす習慣がありました。ご遺骨迎えのあと、ご葬儀でお世話になった僧侶や世話人・近親者・友人・知人などを招いて感謝の意味で酒と料理でもてなしますが、このとき初めて肉や魚を食べるので「精進落とし」といわれているのです。



23 喪中はがき

ご葬儀をだして、初めて迎えるお正月の年賀状は、服喪中である事から遠慮するのがならわしです。相手側が年賀状の宛名書きを始める11月下旬から12月上旬までの間に年賀欠礼(喪中)はがきを、出しましょう!
⇒当社でも、ご準備出来ます!!
詳しくは、担当スタッフにお聞き下さいませ。



24 分骨

釈迦入滅の折、荼毘(だび)に付された仏舎利は8ヶ所に分骨され、弟子たちの手でそれぞれ厚く供養されたのが分骨の始まりです。遺骨は、郷里にある先祖代々の墓に分骨されたり、浄土真宗では本山へ分骨します。

